

水の都 廣島

西 龜 正 夫

水の都

廣島市は水の都、中國の小大阪と呼ばれてゐる。大阪は水の都に違ひないが、市街の大きさの割合から云へば、廣島の方がもつと水が多い様である。これを水の都の本場、イタリーのベニスには到底比べるわけに行かないけれど、北方の水都と云はれるストックホルムには、比較してもあまり遜色が無い様である。わが國では松江市なども水の都と呼ばれるが、街の一邊が水に臨んでゐて、一本の川がこれを貫いてゐるだけの話であるから、こんなのを水の都と云ふならば、大津も、岡山も、その他尙澤山にあるであらう。廣島はこれ等とは選を異にする。強て匹儔を求めればまづ徳島ぐらゐなものであらう。

川 と 橋

廣島市内を貫流する太田川の下流は七本あつて、その總延長五萬九千米面積三百萬平方米である。その外に尙運河が二本あつて、城濠と共に市を十一個の島と、陸つゞきの二つの部分と合計十三個の小片に分割してゐた。近年運河と濠との一部分が埋められたが、それでも島の數は六つある。勿

論眞の離れ島である金輪島や似島はこの外である。

これ等の小片を運ねるための橋は大小七十幾つあつて、その外に渡船の通つてゐる部分も五ヶ所ある。橋には新相生橋のやうな珍しいT字橋があつて、舊相生橋と相俟つてH字形になつてゐるなど、一寸他に例のないものであらう。鷹野橋、西塔橋など、現在橋の無い所に地名として橋名の残つてゐるものもある。

これほど澤山の橋があつても、東西の方向の交通は尙甚しく制限されてゐて、町を東西に貫く幹線は四條しかない。併しそのために東西の商店街は一般に南北街よりも繁昌してゐる。橋が交通線を集扼するからである。

川と交通

川は勿論流れが緩かであるから運輸交通を助けること云ふ迄もない。西部の川は概して淺くて平素は殆ど流水を見ない程であるが、潮汐の干満が大であるために満潮を利用すれば小舟はずつと上まで廻ることが出来る。東部の川は干潮時でも小舟を通ずるし、最東部の猿猴川は可成りの汽船を容れることが出来る。

これ等の川がどれだけの交通量を持つかは何等調査せられたものが無いし、個人で調べるとは殆ど不可能である。併し觀察し得たところを質的に記載して見ると、市の前域たる島嶼部方面から市に搬入せられる野菜・果物等は概ね中央に位する本川に集り、東川橋の下手から河原町までの河岸には常に數十百隻の發動機船が輻輳し、そこには多くの問屋・回漕店・倉庫等が立ち並んで終日

荷物の積み卸しに雜間を極めてゐる。又市内で買ひ集められ、若くは各工場等から排出せられる屑物類、即ち古鐵・布片・紙屑・空瓶等の類は多くは同じ東川の住吉橋詰に集積し、こゝから船積せられるのである。又安佐部方面から舟で下つて來る野菜類は天滿川に下つて天滿市場で取引される。

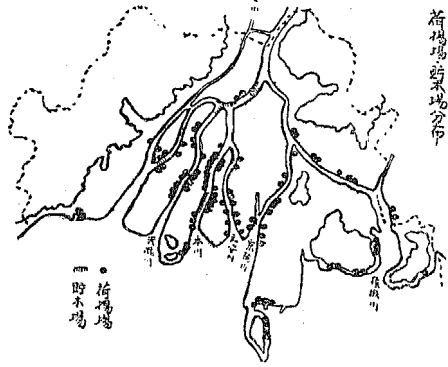
多くの工場が河岸に位置するのは當然で、それ等は何れも専用の岸壁又は棧橋を有し、船と工場とを直接結び付けて原料や燃料の陸揚げ、製品の船積みを行つてゐる。重量品を取扱ふ工場にあつては工場内から河岸まで軌道を敷設してゐるものが多い。都市計畫でも各川の下流、殊に東部の方面を工場地帯として指定してゐる。

島嶼方面からの客船は宇品港に入るものも多いが、中には東川及び元安川に入るものも少くない。買物に來る人たちは成るべく市の中心部まで入つた方がよいからである。これに反して土石及び煉瓦・瓦等の建築土木材料類は、市の周縁部に需用が多いから、京橋川や天滿川が最も盛である。川の中流方面で採取される土石類も亦多くこの方面へ下つて來る。

太田川の上流から筏として流し出される木材も亦莫大なもので、それ等は一時河岸に繋留貯木して置いて、河岸の製材所で順次製材されるのである。貯木場の多いのは概して西部の河川であるがこれは淺くて船の通れない所を利用するためであらう。

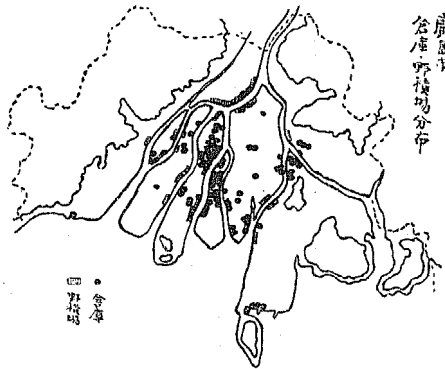
第一圖には貯木場と荷揚場の分布を示し、第二圖には倉庫と野積場を示した。(圖が小さいので幾分位置の不正確な點のあるのを諒せられたい)野積場は多く河岸の空地を利用したもので、中には

第一圖



廣島市
荷揚場流域分布

第二圖



廣島市
倉庫野積場分布

も多いのは堺町方面であるが、そこは卸問屋の最も澤山ある區域である。

河水の利用

河水は極めて清冽で大雨の時以外には些の混濁も認められず、川底の小石も數へることが出来る。流域が主として花崗岩地であることも一原因であらう。又潮汐の干満があつて常に汚物を運び去るからでもあらう。見た所ではそのまゝ、飲用にもなりそうな美しさである。随つて市民はこれを雑用水として使用する。上水道の出来ない以前には、少し上流の方で汲んだ水を、桶に入れて飲料水と

道路の一部が事實上の野積場となつてゐるものもある。随つてそれが荷揚場と近接してゐるのは勿論である。倉庫に至つては河岸にあるものゝ外に河岸から離れた所にも相當にあるが、それは多くは商店専屬の商品倉庫で貸倉庫では無い。その最

して賣り歩いて居たものである。

上水の水源は勿論この河水を使用してゐる。明治二十九年に起工して三十一年に竣工、その後數回の擴張工事を施されて今日に至つたもので、取水場ははじめ牛田にあつて表面水を取つて居たが昭和九年竣工の擴張工事でもつと上流の原村に設け、伏流水を取り入れることにしたのは特異な點である。即ち取水枠は最低水面下五米を基礎とし、方形鐵筋コンクリート造の函三個を併列し、その周圍に清淨な川砂利を填充し、枠に穿つた多數の小孔から浸透する水を集めるもので、ポンプで汲み上げて牛田町の淨水場に送り、八個の濾過池に入れ、淨化滅菌した上で海拔五二米の山上にある七個の配水池に壓送し、市内に配水するのであるが、伏流水のことゝてそのまゝでも立派な飲料水となり、殆ど滅菌の必要もない程であるし、その上水溫も冬は地表水より六七度高く、夏は反對に冷たいといふ誠に好都合に出來てゐる。

そして水量の豊富なこと驚くべきもので、目下の設備で人口四十萬人に對する最大給水量七萬六千四百五十五立方米（一人一日最大給水量一九一立一四）の給水能力を有する。而も牛田の舊取水場の設備は休止のまゝ豫備として存置してあるから、若しこれをも使用するとなれば更に二十五萬人分の給水が出來る勘定で、一人一日の最大給水量を一一〇立程度で辛抱するとすれば、人口百萬人までは差支ないわけである。

そこで市民に對する給水も殆ど全部放任給水の制度で、工場などの外はメートルなどのケチな方はとつて居ない。夏になると随分噴水だけの庭や道路の打水などにも使はれるが、節水などいふ注

意を受けることも無く、況や時間給水だの夜間断水などいふことは嘗て経験したことが無い。

最近錦華人絹の工場が出来たのも、水の豊富なのが一大理由となつたもので市は非常に安價にこれを提供してゐるのである。尙最近は水に苦んで居る呉市でも、いよ／＼この太田川の水を水源に利用することに決したが、それは廣島市にとつて何等の痛痒も感じないほど水は豊富に存在するのである。因に、呉市は現在人口二十三萬に對して一萬二千立方米一人五十立餘の給水設備しかないで、殆んど年中時間給水の必要があるといふ有様である。

水の豊富なこととは火災を少くする上にも慥かに有効だと考へられる。上水道には三千餘の防火栓があり、直接河水を防火に利用することも無論あるので、市には大きな火災が極めて少く、數十戸も延焼するといふやうな例は殆ど無いのである。

廣島市火災表

年次	火災度数	延焼度数	全焼棟數	半焼棟數
昭和四年	一一六	一六	五五	七九
同五年	一一七	一四	九四	三九
同六年	一一〇	二一	六三	四〇
同七年	一二三	一六	五七	二五
同八年	一二三	二三	三七	一八

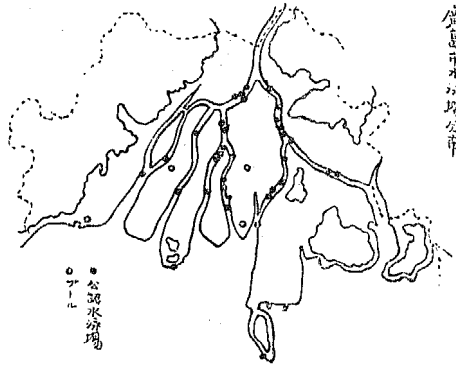
川 と 娛 樂

廣島の夏は夕風があるので非常に凌ぎ難いといふが、それは川の存在によつて慥かに相殺されると云つてよい、夕食をすませた市民の多數は、裕衣がけて橋の上に出掛ける。そこは恰好の涼み場なのである。いくら夕風でも橋の上はさすがに涼しい。折から満潮にでもなつて、月の光が銀波をたゞよはせる時、それでなくても河岸の家の窓の灯は、金の砂子を撒き散らしたやうで、景色の美しさも亦一入である。最も交通の激しい本通り筋の橋の上は、近年涼み客が著しく減つたが、自動車のみならず通らぬ様な橋の上には、床几を持ち出して夜更くるまで涼んでゐる人たちも少くないのである。

橋の上は又有閑人士の釣魚場となる。ハゼなどの季節になると、どの橋にも屹度數十人が釣を垂れてゐる。投網を投げるものもある。時には川の中に入つても釣るし、無論水の無いところでは潮干狩も出来る。釣道樂は何もこの地に限つたことでは無いが、遠方まで出掛けることなくして、市中で釣が出来るといふ處は他にあまり例がない。随つて廣島の釣道樂は人數の割合が屹度多いに違ひないと思ふ。統計は無いが市内に釣道具屋の多いのを見ても想像がつく。そして釣道具屋の多數は恰度橋の附近に位置してゐる。

毎年七月になると水泳場が開かれる。各小學校は大抵最寄りの河に水泳場を設置するし、各町で設けるものもある。第三圖はこの水泳場の分布を示したもので、西部の川に少いのは水が浅いからである。併し何にしてもこれほど便利な水泳場はあるまい。或學校では教室に服を脱いで置いて運

第三圖



名を知られてゐる。

ポートルースも亦盛である。大學・高等學校・高等工業は勿論、中等學校にも端艇部を有するものがある。殊に縣師範の如きは、明治時代琵琶湖の全國大會に三年連覇の榮譽を獲得して『臥虎團』の名聲を天下に揚げたものである。

ポートと云へば遊戯用の貸ポートも澤山あつて、夏の夜の遊びには最も恰好のものとなつてゐる。又左の利く人たちには牡蠣船といふのがあつて、廣島獨特の牡蠣、及び鮎や白魚、鰻などの川魚料理を喰べさせる。水に浮んだ坐敷だけに又格別の趣味がある。

動場からすぐ飛び込んでゐる。夏休み中でも大抵の子供が毎日水泳をやる。海濱の村落ならば兎も角、人口三十萬の都市の中心部に住んで居て、自分の家から水泳着のまゝ飛び出すことの出来るといふ例が、果して他にもあるであらうか。海水浴場としては郊外や島嶼方面に澤山開設せられて、寧ろブルジョア組が押し掛けるが、市内の河川は大衆的で、且主として晝は子供の占有となり、夜になると大人の泳ぐものも多い。而して縣立二中には公認の五十米プールがあり、一中及び修道中學にも二十五米プール、又草津には民營のプールがあるので、スポーツ王國の廣島は水泳に於ても亦天下にその

本川の下流には住吉神社がある。水に臨んで老杉の並木の間から美しい社殿が見えてゐる。この神社は云ふ迄もなく航海守護の神を祭つたもので、船乗りの尊崇最も篤く、毎年七月の大祭は俗に川祭りと言つて、美しく飾つた船に神輿を乗せて川を上下するので、水の都にはふさはしい年中行事の一つである。

川と都市の構造

川の存在は都市の内部構造に種々の特異點を生ぜしめてゐる。先づ川に沿ふて街路のある部分と然らざる部分とがある。元來川沿ひの堤防はそのまゝ、通路となり、これに面して家が立ち並べば、

廣島市
河岸片側町の分布



第四圖

船をつけて荷物の揚げ卸しをするにも便利であるが、所謂河岸通りの片側町が出来るのは當然であるが、川の屈曲した凸部であると、川底も浅くなつて船つきがわるくなるし、都市の發展につれて少しでも陸地を廣げやうとする運動が起つて、地先を埋立ててそこに家を建てる。するとこれ迄の片側町は對向した街衢となつて、川には家の裏口がのぞく様になる。河岸片側町の分布を示すと第四圖の通りで、大體から云へば荷揚場のある處は片側町であり、それは工場地域か又は都心に近い或部分である。併し商業區域は概して地價が高いため埋立が行はれ、片側町の消失したものが少くない。

埋立を行つて對向街となつた場合、狭い土地を極度に利用する結果、河面の上に家屋の土臺を突き出したものが澤山ある。これを俗にかけ出しと稱してゐる。又堤防の背後が急に低くなつてゐる場合、堤防上に立つ家は、表が平家で裏が二階造となつてゐるものがある。表が二階なら裏は三階である。併しこんなことは何も廣島市特有の現象では無い。

下水と地下水

市の下水道は汚水と雨水とをすべて下水管で暗渠に導く仕掛けで、汚水は一日一人平均一〇立雨水は一時間二十五糶の降雨を標準としてゐる。そして市の北部は土地が高燥であるから自然流下によつて河川へ放流してゐるが、南部新開地方面は低濕であるため、満潮時には水面下になるのである。自然排水は不可能である。そこで閘門を設けて満潮時には閉ぢ干潮時に開放するのであるが、若し満潮時に降雨があると忽ち下水道は充溢することゝなるから、十一箇所に抽水所を設け、ポンプを用ひて排水を行つてゐる。嘗て竹屋町方面で一時間五十糶といふ猛雨があつて、而もそれが満潮時であり、抽水所のポンプに故障があつたために、忽ち數千戸に侵水した騒ぎがあつた。

市はデルタの上に位置するので、地下水の水位が頗る高く、何處でも地表下一米か二米以内で豊富な地下水のヘッドに達する。處によつてはヘッドが殆ど地面に達してゐる所さへある。勿論その水は飲料には不適當であるが、雑用としては何等の差支もない。そこで街路の兩側には約二三十米毎にポンプが備へ付けてあつて、道路の撒水等が自由に行はれる。實に廣島ほどよく道路に撒水する町は無いと云はれる。どんな炎天の日にでもアスファルトの舗道が片時も乾いてゐる時は無いと

云つてよい。これ全く水が豊富なからである。

縣立二中のプールの水は深さ百尺の井戸から汲み上げるのであるが、極めて少量のクロールを含んでゐるのみで殆ど飲料水にもなるほどの清らかさであり、而も直徑五時の鐵管から一晝夜に七千五百石を汲み出すことが出来るのだから、如何に地下水が豊富であるかがわかる。こんな掘抜井戸で用水をとつてゐる工場も澤山ある。

水に因む特産品

廣島と云へばすぐに牡蠣を思ひ出す人が多いであらう。廣島牡蠣はその品質と産額と共に日本一であり、遠く東京から滿洲までの間の各地へ送り出される。近頃は垂下式の養殖で深い海でも行はれるが、普通の養殖は凡て干潟になるやうな淺海で行はれる。牡蠣の外に海苔も亦市の地先に於て行はれ、上質のものは東京まで行つて淺草海苔に化けるとのことである。牡蠣と海苔とで一ヶ年の産額七十八萬圓である。

次に川に産するものとしては鮎と白魚がある。共に獨特の風味を有して人の味覺をそゝる。それから魚類の外に砂及び砂利も重要な物産である。砂は美しい花崗岩の砂であり、砂利は花崗岩、片岩類、粘板岩等の礫で、共にコンクリートの材料として最も良好で、市内の建築土木の材料を悉く供給してゐる。

工産物として水に縁あるものを拾つて見ると先づ酒がある。廣島の酒と云へば天下に名高いが、それは多く郡部及び吳市の産である。併し廣島市にも芳醇な銘酒がある。嘗ては西條の酒と品質を

争つたこともあつて、醸造技術の改良には苦心を経たものであるが、要するにこれも水質のよこ
とが一原因でなくてはならぬ。年産額八十萬圓である。

次で清涼飲料水が五十萬圓あるが、これはアイスクーキのために壓倒されかゝつてゐる。又必ず
しもこの地の特産ではない。特産としては染手拭と晒布がある。工場が河岸にあつて豊富な河水を
利用して操業してゐる。傘も特産の一つで、これも水に縁があると云へば云はれる。

農業では地下水の豊富なことが蓮根の栽培を盛にした。廣島縣の蓮根はその産額全國第一位にあ
つて、郡部にも相當に産するが市の産額が最も多く、年額約四十五萬圓である。(完)

薩隅地域に於ける園藝業

——主として蔬菜園藝について——

吉 田 主 計

目 次

- 一、園藝業發達の過程
- 二、風土性と園藝
- 三、主要園藝作物の生産と仕向地
- 四、代表的園藝地帯の概説
- 五、結 語

一、園藝業發達の過程概観

薩隅地域に於ける園藝業

100

二五